



リンゴ黒星病とモニリア病を同時防除できる 重点防除時期「花蕾着色期」

【1 成果の概要】

近年、春期の温暖化の影響により、リンゴ黒星病の感染開始時期が早期化しています。

- (1) 黒星病の一次感染は、「ふじ」の花蕾着色期から始まります。花蕾着色期に感染すると、開花期～落花期頃に樹上で発病し、その後の多発生に繋がります。このため、従来の開花直前に加えて、花蕾着色期の防除は必須です（図1）。
- (2) 花蕾着色期は、モニリア病の葉ぐされ初期病斑が出現し始める時期であり、DMI剤やSDHI剤を散布すると、その後の病勢進展を阻止できます。
- (3) 以上から、花蕾着色期は黒星病とモニリア病を同時防除できる重点防除時期です。



写真1 黒星病（左：葉、右：果実）



写真2 モニリア病（花ぐされ）

※矢印：葉ぐされ病斑

	展葉3日後	花蕾着色期 (開花7～10日前)	開花直前	落花期
モニリア病		◎		
黒星病		◎	○	

図1 黒星病とモニリア病の重点防除時期

※◎：本成果で明らかにした重点防除時期

※※花蕾着色期：中心花蕾～全花蕾が着色する期間中の降雨に合わせて防除します。

【2 留意事項】

花蕾着色期に防除を実施する場合、展葉3日後のモニリア病の葉ぐされ防除を省略できます。